

令和8年度 第1回サイエンスダイアログ 実施報告

令和8年5月27日(水) 3年(理数コース) 2年(理数コース)

中部大学 生命健康科学部 生命医科学科 に所属されている、

Dr. Mahmoud Gallab Mahmoud Mohamed ELMOLAKAB ELROUBI (Mr.) にご来校いただき、ご講義を受けました。

Dr.の研究分野である工学系科学・人間医工学の「医用積層造形チタンの生物活性を最大化するマイクロ表面形状制御技術の探索」の解説と、出身国のエジプトについてのわかりやすいお話しをしてくださいました。

おもに英語での講義でしたが、生徒は興味津々に講義を聴き、英語での質問も意欲的にしていました。
大変有意義な時間となりました。

◆生徒の声

- 大学院生の日本語での研究説明の補足やスクリーンにも、適度に日本語が書かれていたため、研究内容がある程度理科できたこと。また、視覚的に理解しやすい資料も多く、より分かりやすかった点だったり、生命と工業が組み合わさった分野の今を知ることができ、知見の視野が広がった点だったり挙げられます。
外国の文化を体験している人物からの視点や知見などを知ることができ、面白かった。医療工学はまだ研究段階でも序盤ではあるが、様々な革新的研究が行われており、個人的に磁場を使ったマイクロロボットに関する推進力や操作方法などの話が興味深い内容だと思った。
- ベイマックスでマイクロロボットの存在は知っていたのですが、ベイマックスで見たマイクロロボットよりも更に小さくて、かつ人体の中でその効果を発揮させようとしていたものであった。がんや不要な細胞など、それまで医学の薬や光、また、メスによる人体手術といったもので病気を治すということが一般的であったが、マイクロロボットを用いて物理的に、しかも出血多量などの被害をローリスクで行えるという、物理的、機械的なものが医学に立ち会えるということを目の当たりにし、久々に感動した
- とても面白い講義で、工業×医療という、一見遠そうに見える二つは思いの外密接に関わっている事が分かりました。思い返してみるとMRIやレントゲン等まさにそうだと思うので、進路の幅が広まったと思います。
- メイントピック以外にもエジプトの教育制度など興味を引くものが多々あり、楽しめた。
- 発想を実用化していく過程を見ることができて面白かった。
- 人間の模型のようなものを使って実験をしようとしているのがとても驚きだった。目もリアルだったので、すごいなと思った。



Qサイエンスダイアログとは？

独立行政法人 日本学術振興会による講師派遣制度です。大学や研究機関で活躍する外国人研究者による講義を聞き、研究への関心や国際理解を深めることができます。